



VOL.44

再び「あいさつ運動」について

桂川町教育委員会

教育長 穂坂 和義

すでにお気づきになられた方も多
いと思いますが、桂川東小学校と桂
川小学校のフェンスに設置されてい
た「みんなで広げようあいさつ運動」
の横断幕が新しくなりました。これ
までであった横断幕は「生徒指導総合
連携推進事業協議会」が平成19年に
設置したもので、風雨にさらされ、
かなり傷んでいました。

数年前の桂川中学校は校内暴力
や器物破損、授業妨害などが日常的
に発生し、学びの場としての学校が
その機能を発揮できない状況にあり
ました。これを克服するため、平成
18・19年の2年間にわたり、国立教
育政策研究所（文部科学省）の生徒
指導総合推進事業の研究指定を受け、
学校正常化の取組を進めてきました。
この取組を応援するため、PTA
を中心に町内の各種団体・行政等
によって組織されたのが「生徒指
導総合連携推進事業協議会」です。
その中心活動が、子どもたちへの

声かけ・あい
さつによる見
守りでした。

研究指定が
終了し、学校
も落ち着きを
取り戻してきま

したが、素晴らしい
成果を上げたこの協議会の精神を受
け継いで組織されたのが、このたび
新しい横断幕を設置した「生き生き
桂川っ子総合推進事業協議会」です。
同協議会では、あいさつ・声かけ運
動を町民運動として広げていくこと
を目指しています。



桂川町独自の教育創造にむけて：

桂川中学校 校長 安永 保之

1 児童生徒の体力・耐性が低下

○小学生から平均体力が低下して
おり、欠席がちな子ほど体力が低い。
○運動能力が低い子ほど、劣等感を持
っている率が高く、自己有用感が低い。
2 遊ばないから遊べない子の増加
○親と運動をした経験のある子の
率が低下している。

○ゲームや携帯で一人遊びの時間が増
加し、異年齢との交流が少ない。同
時に言語能力が向上せず、人間関係
づくり、社会性が身につかない。

これは、桂川町に限ったことで
はありません。克服には広報8月
号で取り上げている、大分県豊後
高田市の教育施策のように学校教
育と社会教育との融合、小学校と
の連携がキーワードとなります。

本校でも独自に、昨年度からP
TA主催で土曜日に3年生受験対
策として、育生塾を10月～2月ま
で実施しています。また、本物体
験としてゲストティーチャー等を
招いての授業も多く取り入れてい
ます。他にも職場体験や地域貢献
活動、あいさつ運動、マナー講習
や「弁当の日」の設定もより一層「生
きる力」を育むためです。

桂川町の教育の柱は・・・

○幼児・高齢者を問わず有酸素運動
（水泳やマラソンなど）を30分以上、
週3回以上行うと、脳の活性化に
つながり、学習にも効果がある。

○高齢者で学びごとや子どもと関
わっている人ほど、健康で、保
健に係る費用が低い。

以上のことから、体力向上を中心
に学ぶ町づくりが教育の柱になるの
ではないでしょうか。具体的には、

体力向上

幼・保への運動遊びの支援
小学校体育授業への支援
中学校の部活動への支援
町のスポーツ行事の活性化

学力向上

夏休みや土曜日の学習教室開催
地域人材の学校派遣
英語検定等の学習機会の開設

自己肯定感の醸成

園児・小学生と高齢者等との交流
年長園児からの運動能力向上
健康福祉相談を中学生まで

などが、考えられます。幼・保育所
や学校が、自発的に工夫創造してい
くと共に、費用やコーディネーター
を要しますので、教育行政とともに
一歩ずつ創り上げることが重要です。